

P I C A 4 開 催

去る9月4日から6日までの3日間、北海道大学学术交流会館を会場に、第4回寒冷地舗装会議(Paving in Cold Areas: 略称 PICA) が開催されました。

この会議は、日本カナダ科学技術協力協定(昭和55年日本カナダ科学技術協議として締結、昭和61年現名に改称)の研究テーマのひとつとして昭和57年10月にカナダのバンクーバーで第1回会議が聞かれました。以降、つくば研究学園都市で第2回会議が、オタワで第3回会議がそれぞれ開催されているもので、両国の国立研究機関、大学、民間協会より多数の参加のもと行われてきました。

今回の会議のテーマは①寒冷地舗装材料、②温度応力クラック、③寒冷地舗装用試験方法の開発、④寒冷地舗装の損傷と補修、⑤コンクリート舗装、⑥非破壊試験による舗装構造評価、⑦舗装維持管理システムという7つが設定され、それぞれのテーマごとにセッションを設け、発表、討論が行われました。会議には日本側から16編、カナダ側からも16編の論文が提出され、そのうち29編の論文について質疑応答がなされました。また、参加人数も産学官合わせてカナダ側から30名ほど、日本側からは150名ほどが集まり、寒冷地舗装の諸問題について活発な討論がなされました。

なお、会期中の5日には北海道舗装事業協会、北海道土木技術会舗装研究委員会、北海道開発技術センターの3団体の主催による特別セミナーが開催され、北海道大学菅原教授による「雪さっぽろ21計画について」、と舗装研究委員会松村幹事による「積雪寒冷地における舗装廃材の再利用」の2つの講演が行われ、参加者には大変好評だった様子が伺えました。

さらに夜の部については、会期中毎夜レセプションが開催され、北海道の海の幸、山の幸による料理にカナダの方々も舌鼓を打っておりました。また、パーティー会場では同伴してきた御夫人方のせいか、みなさんとても積極的にスピーチを楽しんでいらしたようです。パーティー終了後、そのままススキノに繰り出して、さらに国際親善を深めた方も多かったと聞いています。

会議終了後の7日には、北海道高速自動車道の札幌西インターチェンジの工事現場を見学し、大倉山のふもとでお茶会を催して日本伝統文化を体験していただいたあと、国营滝野スズラン丘陵公園でジスギスカン&ビールの昼食となり、しっかりと北海道文化も楽しんでもらいました。そのまま千歳空港へ行き、3年後のカナダでの再会を約束してテイク・オフ。関西新国際空港、本四連絡橋などを見学してから帰国するとのことでした。こうして第4回加寒冷地舗装会議は、ジェットの爆音とともに終わったのです。



講演中のひとこま



カナダの会議参加メンバー